

第4回地球温暖化対策プラン検討会議（開催結果）

- 1 日時：平成21年11月11日（水）午後3時30分～5時30分
- 2 場所：京都府庁 第1号館 第1会議室
- 3 内容：平成21年度地球温暖化対策プラン最終案に向けた検討について

（主な委員発言）

【太陽エネルギー利用機器等新エネルギーの家庭における導入促進について】

- 太陽光発電や二重サッシ等を設置する際、一般市民はどこに相談すればよいかわからないので、相談窓口の設置（ワンストップサービス化）、事業者説明会の回数増、工務店、ハウスメーカー等、事業者との連携が必要。
- 太陽光発電設備の設置に関して、トラブルが多発していることから、消費生活センター等との連携も必要。

【住宅の省エネについて】

- 京都力結集エコ住宅について、技術等の研究成果のみでなく、暮らしの知恵の発信も必要。
- 新築着工数が低い状況であるので、既存住宅の省エネリフォーム（特に、簡単にできるセルフリフォームなど）をもっと普及啓発してはどうか。
- 建築専門学校等へも省エネリフォームの知識を広めるべき。
- 家庭の省エネ機器として、ヒートポンプ給湯器だけではなく、ガスを使ったコージェネなどもあるので、6頁の記述を「高効率エネルギー機器」としてはどうか。
- 土木建築分野の職員においても環境への意識を高める必要がある。

【再生可能エネルギーの導入拡大について】

- 政権交代により、府も再生可能エネルギーの導入目標も対象も拡大させなければいけないのでは。
- 太鼓山の風力発電は先進的な取り組みであり、失敗を避けるべきではない。
- 新築住宅への自然エネルギーの利用義務づけについて、率先して条例に取り入れてはどうか。

- 新エネルギーには発電、熱、燃料の3つの利用法があり、家庭では熱利用率が高いため、太陽光発電よりも、太陽熱温水器の方の導入拡大を図るべき。

【過度な自動車利用の抑制について】

- 自動車からの温室効果ガス排出削減について、新しい自動車を買えば自然と環境への負荷が低く、ガソリン料金が上がれば使用量が減少するなど、利用者の努力以外の面のみからの排出削減となっており、利用者の環境意識や努力がみられないので、もっと強く啓発すべき。

【府の温室効果ガス排出の状況について】

- 関西電力の2008～2012年の5カ年平均目標の電気排出係数(0.282kg-CO₂/kWh)は、京都メカニズムクレジットを差し引いた調整後の係数であることを明確にしておくことが必要。
- 省エネ行動による削減をわかるようにするため、係数を固定(0.35kg-CO₂/kWh)したグラフも併記してはどうか。
- 排出割合・使用量割合について、90年度との対比を示した方がわかりやすいのでは。

【その他】

- 森林環境税については大きな問題であるが、少し触れる程度でよいのか。
- 生物多様性についても触れた方がよいのでは。